

INTERFACE

仙台市立仙台青陵中等教育学校

第4学年 学年通信

インターフェイス

第24号 令和6年10月28日

「2学期学年委員から挨拶と抱負、学年委員会目標」

2学期からは、6年生は受験直前ですので、4、5年生が中心となって行事や委員会などを進めていきます。後期学年委員会も4、5年生で学年全体をどのようにしていきたいかを確認し、後期学年委員会の目標を設定しました。そこで、2学期学年委員から挨拶と抱負、学年委員会の目標に込めた思いを書いてもらいました。

1組委員長：〇〇 〇〇 さん

多くの人は、学級委員とはみんなを正しい方向へ導いたり、指導したりする役割があると考えているかもしれませんが。しかし私は学級委員にとってその役割は重要ではないと思います。それらの役割の殆どは先生方が担ってくれています。学級委員にできることは、みんなと先生を繋ぐことだと思います。みんなの意見をよく聞き、許可される範囲で最大限実現できるように努力したいです。そのためにはまず多くの意見が不可欠です。話し合い活動を活発に行っていきましょう！

1組副委員長：〇〇 〇〇 さん

みなさんは最近いかがお過ごしですか？もし何か頑張れることがなくて、毎日なんとなく過ごしている人がいたら、そういう人も目標を持つクラスに私はなってほしいです。勉強でも部活でも趣味でももっと小さなことでも、少しずつ目指すところを作ってみてください。でも、目標がなくても焦る必要も無いとも思います。そういう雰囲気づくりに貢献できたら嬉しいです。私はまず人生初の学級委員を頑張るのを目標にします。よろしくお願いします！

2組委員長：〇〇 〇〇 さん

突然ですが、みなさんは感謝の言葉「ありがとう」の対義語を知っていますか？「個人的に好きな禅のお話」の1節より、この答えは「当たり前」とのことです。「有り難し」つまり、有ることが難しいことということ。仏教では「人間に生まれることは難しく有り難いこと」として説かれているのだとか。何気なく過ぎる「当たりの日常」はとても有難いものであるということですね。この「当たりの日常」に感謝をしながら過ごせるクラスを目指します。

2組副委員長：〇〇 〇〇 さん

学級委員は、クラスあるいは学年で少なからず影響力を持っていると思います。その影響力は良いものにも悪いものにもなり得ます。私は、学年をより良くしていくために、今一度自分の生活態度を見直すところから2学期をスタートさせたいと思います。後期の生活に慣れてきて、だんだんと学校での態度が緩くなってくる時期です。私を含め、学年全体で基本をしっかりと定着させてから次のステップに進んでいきたいです。半年間よろしくお願いします。

3組委員長：〇〇 〇〇 さん	3組副委員長：〇〇 〇〇 さん
<p>挑戦に失敗はつきものですが、恐れるべきではない、失敗はある種の気づきであると思っています。思い描く理想に向かって多くの挑戦をすることは自分を成長させます。私は、この学年を学級委員の影響力を利用して、挑戦することに日和らず、各々がやりたいことのために行動できるような集団にしたいです。半年間よろしくをお願いします。</p>	<p>人は互いに影響し合う動物です。したがって、影響の受け方によっては全体として成長していくことができます。私はこの2学期を、学年全体がいい方向を向き、ほどよい緊張感を持って過ごせばいいなと思っています。そのために、学年委員会の一員として微力ながらみんなを巻き込んでいきたいと考えていますので、半年間よろしくをお願いします！</p>
4組委員長：〇〇 〇〇 さん	4組副委員長：〇〇 〇〇 さん
<p>“当たり前”とは、最初のうちは意識しないとできませんが、いつの間にか意識せずともできるようになり、自分の将来を左右することがあります。私はあいさつもその一つで、この先ずっと私たちを助けてくれるものだと思っています。そのため、今のうちからあいさつを習慣化できる学年を目指し学年委員として良い影響を与えられるように頑張るので、よろしくお願いします。</p>	<p>日々の生活において“支え”は必要不可欠です。だからこそ、その“支え”をより良いものにすることが大切です。“より良い支え”を得られるように、そして仲間と与えられるような学年にしていきたいです。そうすれば今もっている目標が実現できると思います。学年委員として、クラス・学年全体を支えられるようにがんばります！よろしくお願いします。</p>
2学期後期学年委員会目標	
支柱 ～八合目～	
<p>2学期の後期学年委員会目標は、「支柱～八合目～」に決まりました。1学期の目標は、学校を中心として活躍できるようにという意味の「大黒柱～ITADAKI～」でした。2学期はどの学年においても大学受験への意識がより高まり、大切な時期になるため、全員をいい方向に巻き込めるようにということからこの目標に決まりました。ちなみに副題は、富士山は五合目までバスで行けるが、そこからは自分の力で進まなくてはならないため、大変な時こそみんなで支え合うことが必要になるという意味で八合目としました。青陵の先輩として色々な場面で活躍する後期だからこそ、胸を張って生活できるようみんなで頑張りましょう！</p>	

※ 第三者への公開・開示や不当な目的での使用、複写及び複製を禁じます。